

平成30年度 学校自己評価システムシート

(私立 春日部共栄高等学校)

目指す学校像	全人的人間の育成という精神を基礎として、知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を育み、社会の発展に寄与する有能な人材を養成する。
--------	---

重点目標	1 社会貢献の意識を基礎とした高い志を育む自治活動の展開 2 生徒からの期待や信頼に高い水準で応え得る授業の実践 3 生徒の可能性を引き出し、生徒の夢を実現する進路指導の充実 4 生徒、保護者、卒業生をはじめとする学校関係者への情報提供の推進
------	--

達成度	A	目標がほぼ達成できた
	B	目標が概ね達成できた
	C	取り組みに変化の兆しがみられた
	D	取り組みが不十分であった

<学校関係者評価委員会>	
協議委員（学校関係者）	7名
内部委員（教職員）	8名

学校自己評価				学校関係者評価		
年度目標			年度評価		年度評価	
番号	評価項目	具体策と評価指標	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
学校関係者からの評価・要望等						
1	①「至誠一貫」の精神のもと、規範意識を高めリーダーシップを発揮できる人材育成とその伝統づくり ②年齢に応じた社会貢献やボランティア活動の実践 ③生徒どうしが互いに応援しあい、達成感を共有できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 公共の場でのマナーや周りへの配慮、また情報モラルの向上を目指す継続的な指導 →学校生活アンケート設問1・2で①②の回答率90%以上 設問3・4で①②の回答率80%以上 生徒の主体的発信を軸にした自治活動の確立 →学校生活アンケート 設問5で①②の回答率80%以上 ボランティアに対する意識啓発と年間を通じたはたらきかけ →学校生活アンケート 設問6で①②の回答率80%以上 災害時、緊急時の対応と地域への社会貢献 →学校生活アンケート 設問7で①②の回答率80%以上 「快音」等を利用した啓蒙活動の充実とお互いを認め合う意識づくり →学校生活アンケート 設問8で①②の回答率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 教師・生徒ともに「七則」「十か条」が規範意識の柱となり、①のみの数値も50%を超えている。 スマホ・携帯は使用禁止ではなく、共栄ルールを基本とした各家庭でのルール作りが望まれる。 自転車の交通マナーについても概ね良好であるが、さらにマナーアップ推進校としての呼びかけなどによって自転車の苦情は減少している。 自治活動については、教員主導の働きかけから生徒主体の活動への移行を模索している段階である。 ボランティアに対して生徒の方は学年が上がるにつれて意識が高まっていく傾向にあり、キャリア教育にも繋がってきていると思われる。 防災関連は教員・生徒ともに意識が高く、避難訓練についても工夫しながらできている。 全国大会、関東大会出場クラブも多く、特に野球部の選抜大会出場は、生徒同士がお互いを認め合うムードづくりに大きく影響した。 	A B A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の規範意識に関する自己チェックは高いが、さらに、どんな状況でも誠実に対応できる人間性を育てていく。 スマホ・携帯については、時代に応じたルール作りをすすめる、情報リテラシー能力を高めていく。保護者も対象にした講演会などを定期的に実施する。 交通マナーでは、事故防止のために関連機関との連携を図り、講習会を定期的に実施する。 生徒の主体的な自治活動を確立させるため、生徒から生徒へ注意喚起する機会を増やし、生徒主導型の自治活動への移行を目指す。 ボランティア活動や主権者教育をキャリア教育の一つとして、eポートフォリオを有効に活用し自己のキャリアの蓄積に役立てる。 各クラブの目標や実情に応じた情報提供としての「快音」やクラブ会議、壮行会などを通してお互い応援し合うムードをつくっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォン・携帯電話についての指導は難しいものがあり、学校だけでは指導しきれないのが現状である。保護者ともしっかりと連携を取りながら、トラブルに繋がらないよう生徒が正しく利用することを期待する。 計画を立てることが苦手という生徒が多いと聞いたが、その対策として「逆算プランニングシート」は大変有効と感じる。大学受験から逆算し、どの時期に何をすべきか、いつまでにできるようにしておくか等を提示しながら、生徒自身がうまくイメージし、実行できるような指導をお願いしたい。
2	①生徒の自己学習力を育成を可能にする授業の実践 ②授業点検と改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の模範モデル(先輩に学ぶ)の定期的な提示 →学校生活アンケート 設問9で①②の回答率80%以上 生徒個々の家庭学習計画の作成と実践(日課表・スタディサブリの利用) →学校生活アンケート 設問10~12で①②の回答率70%以上 重要問題を起点とした授業中心の学習スタイルの確立 →学校生活アンケート 設問13で①の回答率70%以上 授業アンケートの活用による授業点検と改善 →授業アンケート 総合満足度で①②の回答率85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習モデル」などの提示を土台にして、学年別やコース別にポイントを絞った学習、進学関連の情報を発信する機会が増えてきている。 ここ数年、自学自習時間が微増し続けている(学習計画作成も数値上昇)。授業や講習類での工夫に加えて、担任団の個別面談の充実や学習センターの積極的運用など多方面に渡る指導の成果と考えられる。 「重要問題」と「定期試験」を関連づけて生徒をリードすることはできている。他方、スパイラル学習やアクティブラーニング、スタディサブリの活用への取り組みについては、教科内で共有し切れていない感がある。 総合満足度は高評価。懸念される部分については個別対応している。教員個人の研鑽材料として一定の効果を果たしている。 	A B	<ul style="list-style-type: none"> 教務部主体で、進路指導部、学年と連携して進路説明会やコース別集会で「先輩が残してくれたデータ」を最大限活用して生徒の学習意欲を啓発、触発していく。また、個々の生徒が自分に見合った「学習計画」を作成、継続的な勉学への指導、支援をしていく。 スパイラルやアクティブラーニング、スタディサブリなどについて、有効な「活用例」を定期的に提示することで教員間で一定の共有を図りたい。また、これらの学習メニューを「考える授業・講習」や重要問題と連動させ、「新しい学習観」に対応していきたい。 アンケート結果を各自の研鑽材料とすることを基本としつつ、引き続き教科内の入試問題研究の充実をはかり、教員一人一人の授業改善につなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習センターの利用者数が増加していることは、自学自習の習慣づけが広がっていることを示しており、良い傾向であると感じる。 今年度から導入した「スタディサブリ」の有効性を子ども様子からも感じている。2020年度大学入試改革の当該学年は勿論であるが、前年の学年でも積極的に活用できるように取り組みをお願いしたい アクティブラーニングへ真剣に取り組んでいる様子が伺われ、大変興味深く感じる。春日部共栄ならではの授業スタイルが確立されることを期待する。
3	①生徒の可能性を引き出し、生徒個々に応じた進路開拓と大学選択 ②進学講習や模試等の仕掛けによる学力増進	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じた説明会、講演会、「進学通信」等を利用した意識啓発 →学校生活アンケート 設問14で①②の回答率80%以上 オープンキャンパス等を利用した主体的な進路研究の実践 →学校生活アンケート 設問15で①②の回答率80%以上 生徒・保護者対象進路説明会の実施と保護者からの意見集約 →保護者アンケート 設問8で①②の回答率80%以上 各種講習や試験の整理、充実と活用 →学校生活アンケート 設問16、17で①②の回答率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートは設問15を除くすべての項目で数値の上昇が見られた。 さまざまな情報がデジタル化され収集しやすくなっているが、オープンキャンパスへの参加など実際に触れることの大切さも訴えていく。 講習については、日面でも生徒が参加しやすく、また内容面でもより魅力的なものを提供することが必要。 設問17も、安定した数値ではあるが、学習センターの利用やIT教材などの活用を通して、生徒の自学自習を促していく。 	A B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の知りたい情報、役に立つ情報を説明会だけではなく、進学通信なども使って、発信し続ける。 保護者へより具体的な情報を提供するため、コース別の進路説明会などを開催し、推薦入試などのより細かい情報を提供する。ポートフォリオなどに関しても理解を図る。 講習の内容、展開も工夫を施し、講習の質を上げるための取り組みを促す。 各コースに応じたより細かい講習内容を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の若返りが進んでいるようであり、その有効性を最大限に生かすとともに、一方でデメリットについても見定めながら、必要に応じてケアしていく態勢が大切と考える。 ホームページや保護者への一斉メール配信等も活用しながら、生徒同士がお互いに応援しあえる環境を保護者とともに整備できると良いと考える。そのためにもホームページの更新を頻繁に行なって欲しい。
4	①本校Webサイト等を活用した学校関係者への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの刷新による充実と効果的な運用 →保護者アンケート 設問9で①②の回答率80%以上 保護者向け一斉メール配信の有効活用 →保護者アンケート 設問10で①の回答率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 更新頻度の上昇がページビューの増加に繋がっているが、古い情報のページも散見され、定期的なチェックが必要である。 一斉メールは有効に活用できているが、実際の文書も送って欲しいという要望もある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 最新情報などのより積極的な更新と、情報の古いページを適宜更新していく。また、それらをチェック、更新を行なう係を増員する。 一斉メール配信からスタディサブリ連絡帳へ切り替え、より適切な情報配信を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に評価指標に対する達成状況は高く、それぞれの取り組みがよくできていると感じる。これが生徒募集にも生きてくることを期待する。